

コラム①：水稲（二期作）に向けての病害虫防除対策について

二期作で発生が多い病害虫（スクミリンゴガイ、もみ枯細菌病）について、移植期からの早めの対策が重要です。

1 スクミリンゴガイの防除対策

- 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺するときにはゴム手袋を着用する。
- 取水口（5mm以下）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない。
- 一期作において発生が著しかった地域では、生産部会等で一斉防除する。



2 もみ枯細菌病の防除対策

- 本病は種子伝染するので、発病田から採取した籾は種籾として使用しない。
- 塩水選により不稔籾を除去するとともに、種子消毒を徹底する。
- 育苗期の高温多湿を避けるため、育苗施設の換気を十分に行う。
- 生育不揃い、もしくは腐敗している苗は罹病している可能性があるので本田に持ち込まない。



もみ枯細菌病 病徴

- 病もみは灰白色ないし淡黄褐色となる。また健全部と病変部の境界が帯状に褐変することが多い。
- 重症穂では不稔籾が直立して傾穂しない。